

平成30年12月3日(月)

師走

昔、3歳の長男を連れて、とある本屋で絵本を選んでいるときの話。

妙齢のご婦人が近くで長男に声をかけた。

「ぼく、今日はよかったわねえ。おじいちゃんと一緒に本を見れて。」

私はまだ、40前であったのだが、うっすらと白髪が霞のように頭を覆っていたこともあったのか、おじいちゃんの一言には、おもわずご婦人のお顔を見つめてしまった覚えがある。

ところで、先日、磐城共立病院で、母の付き添いで検査のために様々な部署を車いすの母を連れながら回っていると、入院手続きのコーナーで若い事務員の方が、

「旦那さんは、おいくつですか。」と聞くのである。

母は、85でありながらそのように聞かれると答える答えは私にはない。

また違う場所で、入院の手続きを行いながら、ベテランの看護婦さんが

「旦那さんの連絡先の電話番号を教えてください。」と聞くのである。

二度重なると、これは冗談ではなくなっている。

師走になると、また一年が過ぎようとしているとしみじみ回顧することが多くなるが、今年の師走は、回顧するより、何とかして若さを保ち、体力を蓄え、身体全体から生きる力が発散しているような試みを続ける決意に満ち溢れている。

「冗談ではありません。」一人で大きな声で叫ぶ今日この頃である。